

授業科目

聴覚障害II

担当教員名 桑原 桂	対象学年	2	対象学科	言語
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○	◎	○	○

授業の概要

成人聴力検査の種類と目的、方法並びに成人聴覚障害の種類と特性、評価、訓練、指導について理解する。

授業の目的

聴覚障害の鑑別診断のための聴覚検査について知る。

学習目標

- 1.聴覚障害の種類について基本的な知識を持つ。
- 2.聴覚検査の種類や使用目的を理解する。
- 3.成人聴覚障害の種類と鑑別診断に必要な聴覚検査の正しい組合せを知る。
- 4.成人聴覚障害の評価について理解する。
- 5.成人聴覚障害者に必要な環境調整について理解する。
- 6.成人聴覚障害者とのコミュニケーションについて留意する点を理解する。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	成人聴力検査の種類と概要：これから学ぶ聴力検査の名称を知り、臨床場面での使用目的、留意することなど整理する。	講義	
2	純音聴力検査：標準純音聴力検査について検査の使用目的並びに、検査手順を詳しく学び、結果の記入方法とその読み方を理解する。	講義	
3	語音聴力検査：語音聴力検査について検査の使用目的並びに、検査手順を詳しく学び、結果の記入方法とその読み方を理解する。	講義	
4	自記オージオメトリー（Jerger分類）：自記オージオメトリーの使用目的並びに検査手順を詳しく学び、結果の記入方法とその読み方を理解する。またJerger分類について学ぶ。	講義	
5	閾値上検査（MCL、UCL、ABLBテスト、SISIテスト）：閾値上検査の使用目的並びに検査手順を詳しく学び、結果の記入方法とその読み方を理解する。	講義	
6	インピーダンスオージオメトリー（ティンパノメトリー・音響性耳小骨筋反射検査）：ティンパノメトリーと耳小骨筋反射検査の検査の手順を知り、結果の読み方を理解する。	講義	
7	インピーダンスオージオメトリー（音響性耳小骨筋反射検査、通称アプミ骨筋反射検査（SR））：結果の読み方をさらに詳しく理解する。	講義・演習	
8	耳音響放射：検査の歴史的背景、使用目的、検査の手順を詳しく学ぶ。	講義	
9	聴性誘発反応聴力検査：検査の種類と各検査の検査手順、結果の読み方を理解する。	講義	
10	機能的聴覚障害：機能的聴覚障害の診断のための検査の種類とそれぞれの検査の手順を学ぶ。	講義	
11	後迷路性障害の検査1：末梢神経性難聴と中枢性難聴について理解する。	講義	
12	後迷路性障害の検査2：聴神経障害、脳幹障害、聴皮質障害についてそれぞれ整理して理解する。	講義	
13	老人性難聴：老人性難聴の実態を理解するために、聴覚に関わる解剖生理をより深く学ぶ。	講義	
14	騒音性難聴：騒音性難聴と老人性難聴の共通点を、聴覚に関わる解剖生理をより詳しく学ぶことで理解する。	講義	
15	難聴者の聴覚保障と情報保障：「聴覚補償」と「情報保障」という2つのことばの意味を知り、聴覚障害児者への合理的配慮について考える。	講義	

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	言語聴覚士のための聴覚障害	喜多村 健	医歯薬出版	2014年	4,000円+税	前期に購入済み
	聴覚検査の実際 改訂3版	立木孝、市川銀一郎、小田恂 他	南山堂	2009年	3,400円+税	聴覚障害I演習で購入済み
参考書	言語聴覚士のための講義ノート 成人聴覚障害	中野雄一	中野雄一	2009年	2,500円+税	
その他の資料						

評価方法

中間100点満点と期末100点満点を足して2で割ったものを素点とする。

履修上の留意点

毎回、reflection sheetを書いてもらい、sheet提出をもって出席とする。

次の授業で担当教員のコメントが入りsheetは返却されるので、整理して残して置き、復習する際に利用すること。

ディプロマポリシー、特に知識・理解と関心・意欲について自己評価するためのルーブリック作成に協力する。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーは基本的に水曜2限と金曜3限。

質問はメールでも対応する。

Office:F307 Tel:025-257-4430 E-mail:kuwahara@nuhw.ac.jp